

余裕の初優勝

「九州」のつくタイトル6冠目

通算9アンダー、271

26歳の香妻陣一朗（フリー）



【優勝の香妻陣一朗[㊦]と特別協賛・えんホールディングス原田透社長】

「九州」のつくタイトルに強い縁を持つ男が、ついに仕留めた。これまで香妻は宮崎・日章学園中時代の2008、09年と日章学園高時代の11、12年と九州ジュニアを4度制した。同じ12年には九州アマの頂点にも立つ。そして、今回の九州オープン。9年ぶりの九州制覇はプロとして昨秋の「三井住友VISA太平洋マスターズ」以来の優勝となった。

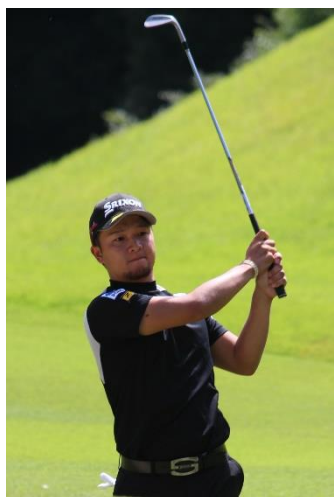
「全体的に安定していたと思う。ショットミスをすることもなく、ボギーを打っても焦ることはなかった。1度は（小田）孔明さんにひっくり返されたけど、それも想定内でした」と落ち着いた言葉が続いた。九州オープンでは自身初の最終日最終組。小田とは1打リードでスタートし、4番のバーディー、ボギーで逆に1打のビハインドとなるが、全く慌てない。前半を折り返した時点でともに35のパープレー。2人のマッチプレーの様相を呈した中

で香妻は最後のバックナインを3バーディー、ノーボギーの32。小田もバーディーを3つ奪ったものの、ボギーが1つ。安定感を保ち、香妻が逃げ切った。

昨秋のVISA太平洋でのツアー初勝利が香妻の気持ちを変えた。「優勝するまで『勝ちたい、勝ちたい』」とっていた。『勝てるのかな』とも。優勝して心に余裕ができました。今は試合でも色々試しながらやっている」。その1つの例がドライバー。様々なタイプを使用しながら自分に合ったものを選ぶ。今大会でのドライバーは「ミスの幅が少ないし、しっくりきている」と好循環となっている。

今シーズンの目標は「ツアーであと2勝して、賞金王を狙う」と言えるのが頼もしい。それだけ自身があるのだ。ターゲットは「調子が良くなるし、好きなコースが多くなる」という秋から勝負をかける。ただ、ちょっと気がかりなのは「疲れがくると出てくる」腰のヘルニアだが、「職業病。うまく付き合っていくしかない」と悲壮感はない。もう、自分を追い込むこともなくなった。

鹿児島で生まれ、宮崎で腕を磨き、今は大阪の豊中市を拠点にする。「生命線」と胸を張る得意のパットを武器に、香妻が男子ツアーを盛り上げる。



○…小田孔明（フリー）はまたしても優勝とは縁がなかった。4番、ボギーの香妻に対し、カラーからのチップインバーディーで1打リードしたが、6、8番の3パットが痛かった。「3パットばかり。グリーンが速く感じた。仕方ない」と九州オープンでは6度目の最終日最終組、3度目の2位にも淡々としていた。最終日は5バーディー、3ボギーの68。43歳のベテランは粘ったが、香妻がそれ以上のプレーを披露した。「陣（香妻）が崩れなかった。うまいわ。ショット力もあるし、マネージメントもしっかりしている。プレッシャーをかけたかったけどね」と小田は優勝した香妻に脱帽していた。

【写真は優勝した香妻】

2年ぶり2度目のベストアマ

1 オーバー、281

東海大九州3年の井戸川純平（宮崎大淀）



【写真はベストアマの井戸川[㊦]と九州ゴルフ連盟の水田理事長[㊧]】

プロに交じって堂々の5位タイで、2年ぶり2度目のベストアマ。1番ミドルでボギーを叩き、短い2番ミドル(301ヤード)では1オンしながら3パット、さらに4番ミドルでも1mのパーパットを外してボギー。悪い流れに沈みそうだったが、5番のOKバーディーで息を吹き返して、終わってみれば3バーディー、3ボギーのパープレーの70。「2年前はギリギリのベストアマだった。今回は5位以内が目標だったので、今回の方が嬉しい」。アマチュアだけに限ると、2位に4打のリードをつけただけに、井戸川のほおも自然と緩んだ。

5月下旬の九州アマで12位タイとなり、中3から6度目の挑戦で初めて日本アマへの出場権を得た。それも最終日残り5ホールで4バーディーを奪って、滑り込みセーフ。「あれでジンクスが取れて。気が楽になりました。それまではいくら調子が良くても、九アマの週になると悪くなって。ずっと日本アマには行けない、と思っていた」。九州アマの呪縛が解けると、プレーも上向きになり、6月3日の九州学生では3位、そして今回のベストアマである。

プロを相手に上位争いの中でのラウンドは井戸川には大きな実となった。「プロはバターがうまい。アイアンの切れも違う。ゲームの作り方も違うし、勉強になりました」と一歩ずつ階段を上る井戸川の日本アマ(6月29日から4日間)での目標は10位以内だ。



周囲の山々の景色が目を
楽しませてくれる



こんな動物にお目にかかる
ことも



ティーイングエリアから
グリーンまでほぼ一直線
の609ヤードの12番
ロング

